

私立大学図書館協会 2019 年度西地区部会研究会

研究発表 (1) 「障がい者支援 —KIT・LC の取組み—」

金沢工業大学ライブラリーセンター

橋本 剛広

「図書館での障がい者支援」は、様々な利用者に広くサービスを提供する公共図書館では当然の考え方であるが、私立大学図書館の主な利用者は大学生と教職員であるため、利用者から合理的配慮の提供を求められる図書館はそれほど多くないものと思われる。金沢工業大学ライブラリーセンター (KIT・LC) において、これまでに障がいのある学生から不都合の申し出を受けたことはなく、合理的な配慮について検討した具体的な事例はない。

学校法人金沢工業大学としては、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 (障害者差別解消法)」及び「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消に関する対応指針」に基づき、適切に障害者支援を実施するための規則を制定している。

学生や保護者からの障がいの申告を元に、学生のプライバシーに配慮しつつ関係者間で情報共有を図り、当該学生が授業を履修する上で困難を伴うと思われる事柄について事前に検討し、可能な範囲で対応している。また、大学事務局に相談窓口を設け、修学上の不都合があれば個別に申し出てもらっている。

世の中には様々な障がい者がいるが、本学にどのような障がいを抱えた学生が入学しているのか。当該学生の KIT・LC の利用においてどのような不都合が想定されるのか。また、特別な配慮の申し出があった際、どのような支援ができそうか。今回の研究発表を機に考察した結果を紹介する。

研究発表 2

「障害学生支援と図書館利用サービス」

日本福祉大学附属図書館 石川 宗臣
日本福祉大学学生支援センター（学生課）生川 友恒

日本福祉大学の歴史は 1953 年の中部社会事業短期大学の開学から始まり、1957 年には日本で最初の 4 年制の社会福祉学部を誕生させ、その後 1983 年には名古屋市から愛知県知多郡美浜町に総合移転、現在の 4 キャンパス 8 学部に発展してきた。附属図書館は 1953 年の開学とともに開館した。

建学の精神を基にした教育標語「万人の福祉のために、真実と慈愛と献身を」は、福祉研究・教育の原点を示すものであり、本学教職員はこのマインドを大切にしつつ、大学全体で障害のある学生や様々な困難をかかえる学生を含め、多様な教育・サポートを実践してきた。

本学では歴史的においても、様々な障害のある学生が多く在籍する状況となっており、状況に応じた個別支援や環境整備を行ってきた。こうした経験やノウハウを通じ、大学として合理的配慮にも留意しつつ、障害学生支援を推進、発展させてきた。

今回の発表では、決して大規模ではない本学において実践してきた取り組みの概要について、具体例を交えながら紹介するとともに、障害学生支援に関する課題等を踏まえ、今後の合理的配慮のあり方や方向性について考えるきっかけが得られるよう発表したい。